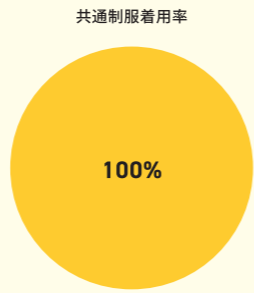


# 数字でみる錦海リハ

「みんな同じ服で、みんな同じチーム」  
**共通制服着用率 100%**

錦海リハでは、医師、看護師、介護福祉士、療法士、社会福祉士、事務スタッフも、全員が同じボタンドウンシャツとチノパンを着て働いています。着用率は、なんと100% (2026年4月1日現在)。  
 この制服には、職種の垣根をなくしたい、という想いが込められています。同じ服装で、肩書きではなく「チームの一員」として互いに声をかけやすくなり、日々の連携が自然と深まります。一人じゃない。だから、もっと強くなる。そんなチームの文化が、この数字に表れています。



共通制服着用の職員 n=135 (2026年4月1日現在)

## 専門雑誌・書籍掲載

- 橋本圭司 (医師・副院長) 発達障害っ子の中学受験 (株)KADOKAWA, 2025.10.16
- 竹内茂伸 (言語聴覚士・副院長) 歯科と言語聴覚士との連携 言語聴覚士 (ST) のことをもっと知ろう! 世界展望146巻4号、医歯薬出版(株)、2025.10
- 橋本圭司 (医師・副院長) 神経発達症 小児リハビリテーションのSWIH一超少子化時代を迎えて J. of Clinical Rehabilitation 34巻13号、医歯薬出版(株)、2025.11.13
- 仙田春菜 (作業療法士) 学会・研修会印象記 第28回日本臨床脳神経外科学会 作業療法ジャーナル VOL.59 NO.12、(株)三輪書店、2025.11.15
- 竹内茂伸 (言語聴覚士・副院長) 歯科と言語聴覚士との連携 歯科からSTに期待できること、STが歯科に求めること 世界展望146巻5号、医歯薬出版(株)、2025.11
- 竹内茂伸 (言語聴覚士・副院長) 歯科と言語聴覚士との連携 リハビリテーション病院における言語聴覚士 (ST) との連携・協働 世界展望146巻6号、医歯薬出版(株)、2025.12
- 橋本圭司 (医師・副院長) 高次脳機能障害のリハビリテーション 脳損傷後の後遺症に向き合う (健康ライブラリーイラスト版) 株式会社講談社、2026.1.29
- 定立睦未 (理学療法士・リハビリ技術部副主任) 脳血管疾患罹患後の運動イメージの違いからみた、回復期病棟退院1ヵ月後の活動範囲の特徴と運動イメージの評価における属性による特性
- 精神・心理領域理学療法学会3巻1号、日本精神・心理領域理学療法学会、2026.2
- 澤田昌樹 (理学療法士) 3mmの段差は歩行車を使用する高齢者の屋内移動の障壁となり得る-地域在住高齢者1名による症例研究- 日本福祉工学会誌、日本福祉工学会、2026.3

## 外部講演

- 角田賢 (医師・病院長) 全身管理・重症者管理のポイント 第30回回復期リハビリテーション病棟協会医師研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2025.10、オンライン
- 田村篤人 (言語聴覚士) 失語症について 令和7年度あいさポーターステップアップ研修、鳥取県社会福祉協議会主催、2025.10.10、鳥取市
- 田村篤人 (言語聴覚士) 失語症について 令和7年度あいさポーターステップアップ研修、鳥取県社会福祉協議会主催、2025.10.17、倉吉市
- 川上統司 (作業療法士) 老年期の基礎知識 令和7年度鳥根県現職者選択研修 (老年期領域の作業療法)、鳥根県作業療法士会、2025.10.19、オンライン
- 田村篤人 (言語聴覚士) 失語症について 令和7年度あいさポーターステップアップ研修、鳥取県社会福祉協議会主催、2025.10.22、米子市
- 上村順一 (理学療法士) 血圧の変化と身体への影響 アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2025.11.6、米子市
- 大嶋恵美 (管理栄養士) 在宅における栄養管理の実態 在宅医療推進のための看護師育成支援事業、鳥取大学医学部附属病院主催、2025.11.6、米子市
- 橋本圭司 (医師・副院長) 高次脳機能障害と神経発達症 第49回日本高次脳機能学会学術総会シンポジウム2「障害の理解を深める-効果的な高次脳機能リハビリテーションをめざして」、日本高次脳機能学会、2025.11.14、愛知県
- 上村順一 (理学療法士) 寒さか身体に与える影響 アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2025.11.20、米子市
- 橋本圭司 (医師・副院長) 子どもの高次脳機能障がいと発達障がい 令和7年度鳥根県高次脳機能障がい者支援研修会、鳥根県・東部鳥根医療福祉センター主催、2025.11.29、松江市
- 門脇康浩 (言語聴覚士・リハビリ技術部主任) 失語症と失語症者との意思疎通方法 株式会社山陰合同銀行「合理的配慮の提供」実践研修、株式会社山陰合同銀行主催、2025.12.8、松江市
- 赤神周子 (言語聴覚士) 複習指導方法についての相談と事例検討 令和7年度西部地区道級担当者及びLD等専門員研修会、鳥取県西部道級指導教室主催、2025.12.8、米子市
- 角田賢 (医師・病院長) 全身管理とリスクマネジメント 回復期リハビリテーション看護師認定コース、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2025.12.18、オンライン
- 濱崎喬之 (言語聴覚士) 離乳食が支えるお口の育ちとコミュニケーションへの広がり 助産師部会・保健指導部会合同研修会、鳥取県助産師会主催、2025.12.20、倉吉市
- 上村順一 (理学療法士) 膝関節痛のセルフマネジメント アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2025.12.21、米子市
- 橋本圭司 (医師・副院長) 高次脳機能障害〜子どもから高齢者まで〜 第17回滋賀県高次脳機能障害リハビリテーション講習会、滋賀県高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会主催、2026.1.11、滋賀県
- 上村順一 (理学療法士) 腰痛と予防・対策 アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.1.15、米子市
- 平野正樹 (作業療法士・リハビリ技術部主任) 災害支援について 令和7年度地域包括ケアシステム委員会人材育成研修、鳥取県作業療法士会主催、2026.1.24、米子市
- 橋本圭司 (医師・副院長) 高次脳機能障害の診断・治療・支援について 宮崎県医師会 令和7年度高次脳機能障がい講演会、宮崎県医師会主催、2026.1.31、宮崎県
- 角田賢 (医師・病院長) 地域のなかの回復期 地域のための回復期
- 角田賢 (医師・病院長) 研修委員会企画シンポジウム「回復期リハビリテーション病棟における退院前カンファレンスのリアル〜実践者が語る大切さと継続工夫〜」

- 橋本圭司 (医師・副院長) ライフステージに沿った高次脳機能障害支援の実践 回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2026.2.6-7、米子市
- 上村順一 (理学療法士) 骨粗鬆症 アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.2.12、米子市
- 北山朋宏 (作業療法士・リハビリ技術部課長) 臨床実習における管理・運営 北山朋宏 (作業療法士・リハビリ技術部課長)
- 職業倫理および連携論 川上統司 (作業療法士)
- 臨床実習指導方法論 令和7年度第1回鳥取県臨床実習指導者講習会、日本作業療法士協会主催、2026.2.21-22、米子市
- 橋本圭司 (医師・副院長) 高次脳機能を伸ばす 世田谷「春の音コンサート2026」、世田谷高次脳機能障害連絡協議会主催、2026.2.22、東京都
- 濱崎喬之 (言語聴覚士) 離乳食が支えるお口の育ちとコミュニケーションへの広がり 山陰言語聴覚士協会小児部春の勉強会、山陰言語聴覚士協会主催、2026.3.1、米子市
- 角田賢 (医師・病院長) 2026年度 診療報酬改定について 第48回松江市脳卒中地域連携ハス合同委員会、松江市脳卒中地域連携ハス合同委員会主催、2026.3.19、松江市
- 上村順一 (理学療法士) サルコペニア・フレイル アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.3.19、米子市
- 橋本圭司 (医師・副院長) こどもの高次脳機能障がいと発達障がいを理解する 未来をひらく支援とは つばきジュニア講演会、高次脳機能障がいを抱えた子どもをもつ家族会つばきジュニア主催、2026.3.20、福岡県
- 岩田久義 (言語聴覚士・リハビリ技術部係長) 職能団体による現状報告と課題 令和7年度鳥取県病棟協会リハビリテーション部会研修会「鳥取県西部地区のリハビリテーションについて考えるシンポジウム、鳥取県病棟協会主催、2026.3.25、米子市
- 善波吉人 (社会福祉士・事務局長兼地域医療連携室室長) 「つながり」をアップデートする。〜情報発信と現場力で築く信頼価値〜 2025年度第2回鳥取県社会福祉士会西部地区研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2026.3.28、米子市

## 学会発表

- 北山朋宏 (作業療法士・リハビリ技術部課長) 当院における転倒転落状況の分析と対策 原田あゆ美 (作業療法士)
- 独居生活の再開に向けての関わり〜生活行為に対する具体的なイメージの獲得に向けて〜 第59回日本作業療法学会、2025.11.7-9、香川県
- 松橋菜実子 (言語聴覚士) 右小脳出血後に読字を認めた一例 第49回日本高次脳機能学会学術総会、2025.11.14-15、愛知県
- 佐藤藤之 (言語聴覚士) 地域高齢者に対する聴こえの相談への取組み〜補聴器の必要性を考える機会と継続使用の支援〜 岩田友 (理学療法士)
- 当院における同一症例に対して2画面同時再生での症例検討会の取り組み 星山望 (作業療法士)
- 訪問リハビリテーションの関わりにより、ケアハウスから自宅復帰した一症例 リハビリテーション・ケア合同研究大会 大阪2025、2025.11.21-22、大阪府
- 井後雅之 (医師・名誉院長) 脳損傷後の自動運転再開支援自験例3年間まとめ 山内亜美 (言語聴覚士)
- 法人内の言語聴覚士連携によって「お楽しみ経口摂取」の継続が可能となった一例 定立睦未 (理学療法士・リハビリ技術部副主任)
- 入院時のサルコペニア重症度分類と転倒転倒との関連性 永岡直充 (理学療法士)
- 拘束性換気障がいを呈する脳血管疾患を持つ症例に対し、ベッド周辺動作の介助量軽減を目的とした体幹機能練習を取り入れた理学療法介入報告 益田悠妃 (理学療法士)
- 退院後も引き続き、デイケアにて同一症例を担当し、長期にわたる理学療法を提供した経験 佐賀歩樹 (理学療法士)
- ユマニコードの視点を取り入れ、積極的な理学療法への介入に繋がった一症例 廣瀬美紅 (作業療法士)
- 当院でのmedVRカグラの運用について 新和なつみ (作業療法士)
- 当院における上肢ロボット型運動訓練装置ReoGo-J運用の実際-運動回数に着目したシートの作成- 今井裕人 (作業療法士)
- ドライビングシミュレーターへの街並み走行と実車走行を評価するにあたり、共通の評価用紙を作成し用いることで比較したことによる考察 坂根嘉奈子 (看護師・看護部主任)
- 脳卒中再発予防ハフレットを使用した継続的な指導の実際〜急性期から維持期〜 福田由美子 (看護師)
- 中等度失語症を持つ患者へ脳卒中再発指導を試みて 福原里紗 (看護師)
- 当院における多職種による急変対応スキル向上への取り組み 回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子、2026.2.6-7、米子市

\*氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたくしたちは 回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して 患者さんの社会参加を支援します。

**錦海リハビリテーション病院**  
 〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5  
 TEL 0859-34-2300 [代表]  
 FAX 0859-34-2303



# KINKAI NEWS

REHABILITATION HOSPITAL  
 日本医療機能評価機構 認定第 JC2059 号  
 日本医療機能評価機構 認定第 JC2059 号 R

## 錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院  
 TEL：0859-34-2300 [代表]  
 E-mail：kinkai-hp@kohoen.jp  
 URL：https://www.kinkai-rehab.jp



## SPECIAL 最前線 1

### 回復期リハビリテーション病棟のこれから 回復期リハビリテーション病棟協会 第47回研究大会in米子が 無事終了しました

回復期リハビリテーション病棟協会研究大会in米子が無事終了しました。2025年秋に開催を決定してから3年以上にわたり準備をしてきました。新幹線も通らず、交通の便も悪い山陰に皆が来てくれるのか、その上2月で雪が降ったらどうしよう…。主催を立候補してからも不安は尽きませんでした。結果的には2000人を超える参加者が小さな米子の街に溢れ、大会の会場となった米子コンベンションセンター、米子市文化ホールとも、参加者の熱気が満ちた大会となりました。皆さん本当にありがとうございました。



開会式 角田賢 大会長による開会挨拶

今回の大会は「地域のなかの回復期、地域のための回復期」というテーマで開催させていただきました。このテーマを活かす目的で退院後の生活も意識した教育講演やシンポジウムを準備しました。また協会の各委員会にもこのテーマに沿った企画を開催していただきました。



大会長講演の様子

## 回復期のキーワードは「地域」

新たな地域医療構想、今回の診療報酬改定で回復期にとってショッキングな出来事がありました。これまで急性期に続く時期は回復期とされてきましたが、これが包括期に変更となりました。これからの日本の医療システムの中で回復期リハビリテーション病棟の立ち位置そのものがどうなっていくのか、単なる文言の変更ではないと考えざるを得ません。回復期リハビリテーション病棟がリハビリテーションを専門に集中的に行う専門病院と位置づけられる可能性もありますが、それは地域医療システムから切り離された「別のもの」になる危険性ははらんでいます。

かつて温泉地など住み慣れた町から遠く離れた遠隔地で行われていた「リハビリ」を地域の中へ戻し、住み慣れた場所で実施するものに変えたのが「回復期リハビリテーション病棟」でした。なぜ回復期が作られたのか、何を目的して作られたのか、その「キーワード」が「地域」だと信じています。2026年の診療報酬改定で回復期リハビリテーション病棟入院料にはまた大きな変化がありました。新たな基準に対応するために大忙しですが、この「目先」のことだけにとらわれず、なぜここにこの病棟が必要なのかという原点にもう一度戻って職員みんなで頑張っていきたいと思えます。

社会福祉法人 こうほうえん  
 錦海リハビリテーション病院  
 病院長 角田 賢  
 (回復期リハビリテーション病棟協会 第47回研究大会in米子 大会長)

## SPECIAL 最前線 2

### 回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会in米子開催報告

#### 全国大会を米子で開催 当院・角田賢 病院長が大会長に

回復期リハビリテーション病棟協会 第47回研究大会 in 米子が、2026年2月6日(金)・7日(土)の2日間、米子コンベンションセンター BiG SHiP および米子市文化ホールを会場に開催されました。当院の角田賢病院長が大会長を務め、全国から2000名を超える医療・福祉関係者が米子に集いました。

#### 地域のなかの回復期 地域のための回復期

今大会のメインテーマは「地域のなかの回復期 地域のための回復期」。回復期リハビリテーション病棟が介護保険制度とともに誕生して四半世紀が過ぎた今、地域包括ケアシステムの中で果たすべき役割とは何か、どこへ向かうべきかを全国の仲間とともに論議する場として企画されました。



開会式の様子



会場周辺の様子



大会長講演「地域のなかの回復期 地域のための回復期」  
錦海リハビリテーション病院 角田賢病院長

#### 豪華登壇者による充実のプログラム

大会長講演をはじめ、基調講演・特別講演・教育講演・シンポジウムなど多彩なプログラムが展開されました。鳥取県知事 平井伸治様の特別講演や、「ユマニチュード」の提唱者として知られるフランスのイヴ・ジネスト氏による教育講演も実現し、大変充実した内容となりました。



特別講演「ともに生きる社会へ～人口最少県の挑戦～」  
鳥取県 平井伸治知事



一般口述発表の様子



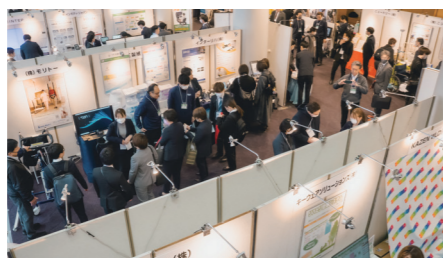
一般ポスター発表の様子



こほうえん運営スタッフの集合写真



ソーシャルワーカー委員会企画シンポジウム「身寄りのない方への支援」



企業展示会場の様子

## SPECIAL 最前線 3

### 公式採用サイトを開設しました「あなたの専門性が未来を拓く」

2026年1月、錦海リハビリテーション病棟の公式採用サイトが新たに開設・公開されました。

#### 充実したコンテンツで病院の"中"をお伝えします

新サイトは「錦海リハを知る」「働く人を知る」「専門性と成長を知る」「働く環境を知る」の4つのテーマで構成されています。廣江見理事長・角田賢病院長のメッセージや職員インタビュー、スタッフが率直に語り合う「クロストーク」コーナーを通じて、チーム錦海の日常をありのままにお伝えしています。

#### 数字が語る、私たちの職場環境

月平均残業時間1.9時間・育休復帰率100%・平均勤続年数10.1年など、ライフステージが変わっても長く働き続けられる職場文化を数字でご紹介。年間研修費補助(一人平均44,491円)など、職員の「学びたい」を支える環境も整えています。

#### 「全職種フラット」チーム医療の誇り

医師から事務職まで全スタッフが対等なパートナーとして、患者さんの「もう一度」という願いとともに向き合う。そんな当院の文化と姿勢を、サイトでは丁寧に発信していますので、ぜひご覧ください。病院見学・インターンシップのお申し込みもサイトよりどうぞ。



お知らせ  
NEWS

- 2025.04.01 【2025年(令和7年)】新卒採用者採用試験のお知らせ
- 2025.02.25 【ポスドク募集】「理学療法士としての役割」を公開しました！
- 2025.02.25 【院報案内】回復期リハビリテーション病棟協会 第47回研究大会 in 米子 (2026年2月6日・7日)
- 2025.02.25 企業フラット(採用)サイトを開設・公開しました

錦海リハビリテーション病院 公式採用サイト



#### TOPICS 01 子どもの高次脳機能障害相談窓口を開設しました

令和7年12月16日に議員立法による「高次脳機能障害者支援法」が成立し、令和8年4月1日から施行されます。この法律の目的は、高次脳機能障害への理解を促進するとともに、高次脳機能障害者の自立及び社会参加のための生活全般にわたる支援を、どの地域でも、あらゆる段階(医療・リハビリ⇒生活支援⇒社会参加支援)で、切れ目なく受けられるようにすることです。

高次脳機能障害は外見からはわかりにくいのが特徴です。お子さんの場合「怠けている」「性格の問題」と誤解されやすく、学校生活や家庭生活で二次的な問題を生じることも少なくありません。この度、子どもの高次脳機能障害相談窓口を設置しましたのでお知らせいたします。



「子どもの高次脳機能障害相談窓口」のパンフレット

#### TOPICS 02 当院の言語聴覚士2名が「認定補聴器技能者」の資格を取得しました

この度、当院から2名の言語聴覚士が認定補聴器技能者の資格を取得いたしました。言語聴覚士のうち聴覚分野に主として関わる割合は限られており、現状では十分に支援が行き届いているとは言えません。一方、認定補聴器技能者は、公益財団法人テクノイド協会が認定する補聴器の調整や適合評価に関する専門資格で、全国でも約5,200人と限られた人材です。難聴は認知症の予防可能なリスク因子とされる他、運転時の標識の見落としや転倒リスクの増加とも関連が示唆されています。高齢化に伴い難聴への支援ニーズが高まる中、本資格で得た知識と技術を生かし、早期発見や適切な補聴支援にも力を入れ、より質の高いリハビリテーションの提供とサービス向上に努めて参ります。

今後も地域医療への貢献を目指して研鑽を重ねていきます。



写真左は佐藤勝之言語聴覚士、写真右は松橋菜美子言語聴覚士